

第4回あさご未来会議 意見内容

1 地域での支え合い

区分	キーワード	具体的な取組みアイデア・進めたいこと	進めていく上での留意事項等
地域でのつながりづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 互いを知る ● 多様性の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ● 配慮を必要とする身近な人を理解する。 ● 近所同士の個人情報の交換など、周りの身近なところからどんどん関係性を深めていこう。(高校生) ● コミュニケーションを良くして、お互いのことを知りあう。(複数)(高校生) ● 世代間のつながりづくり。 ● ジャンルが違う人と関わる。(複数)(高校生)(移住者) ● アウェイな場所に飛び込む。(移住者) ● 相手の気持ちを知ったうえで行動に移すことが大切なので、相手の考えを聞き入れることができる取組みを。(高校生) ● 恥ずかしがらず、地域に出ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人情報の把握。(高校生)(大学生) ● 個人情報の壁。(複数) ● プライバシーの考え方。 ● 自ら壁を作らない。 ● 人を見ただ目で判断しない。(高校生) ● 近所とのつながりが薄くなっていて、近所に誰が住んでいるか分からない。 ● 間違いを恐れない。(大学生)(高校異性) ● 何事もやってみる。(大学生) ● 偏見。(移住者) ● 人を決めつけない。人にはいろいろな事情がある。
地域でつながりをつくる方法・行事等	<ul style="list-style-type: none"> ● 隣近所の多世代のつながりづくり ● 日常的なつながり ● 行事等でのつながり 	<p>【あいさつ・声かけなど日常的なつながりづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 近所でのあいさつ。(複数)(移住者)(高校生)(大学生) ● 積極的に話しかける。声を掛け合う。(複数)(高校生) ● 隣近所の付き合い。(複数) ● おせっかいの大切さ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 変化する。新しい考え方を取り入れる。 ● 交流の場の整理。 ● 交流は「イベント実施」より準備の時間が大切。 ● 同じカテゴリーで集まりすぎる。別のジャンルとの交流も必要。 ● 集いは良いが、他の人も誘おう。 ● 集団より個人を大切にす風潮。

		<p>【行事等でのつながりづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域をきれいにしよう。空き家回り、草刈りなど。 ● たくさんの人と交流を深めるために気軽に立ち寄れる場を増やしてほしい。(高校生) ● 地域での交流の場を増やしてほしい。 ● 近隣住民と出会える・話せる機会づくり。 ● 近所の人やどんな人が住んでいるか、興味を持ってもらうイベントをする。 ● どの地域でも年に一度ぐらいの範囲でイベントを開催して、誰でもが参加できるようにしよう。(高校生)(大学生) ● イベントには進んで参加する。(複数) ● 子ども・若者を含め行事に参加する。(複数)(高校生) ● イベントに参加しにくい人は近所の人などで「一緒に参加しませんか」と誘う。(大学生) ● 参加したくなる行事を考える。 <p>【その他の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 回覧板をつくり、家に行ったり来たりしながら地域の人の把握をする。(高校生) ● 何にもしない合宿。(移住者) ● 朝ハグ活動。(移住者) ● どの世代も参加できる秋祭り。(高校生) ● 異世代・異業種交流会。 	<ul style="list-style-type: none"> ● おせっかいをやりすぎること。 ● 地域の行事を減らしたり規模を小さくしたりするのはやめよう。(高校生) ● 行事を減らすのではなく、できる方法で残す。 ● 「昔は良かった」の再確認を。 ● 行事・イベントへ強制参加。 ● イベント参加に意味づくりを。何もせず見ている人を減らそう。(高校生)
--	--	--	--

<p>支援が必要な人とのつながり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常的な見守り ● 状況の共有 ● 情報の共有 	<p>【高齢者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一人暮らしの高齢者のサポートを。 ● 高齢者の独り暮らしの方へ声かけをする。(複数) ● 双方からの声かけ。 ● 元気に過ごしていることが分かる印を家に掲げておくのも良い。 ● 介護サービスを使っている家・人にも関わり続けること。 ● 社協を通じて高校生が買い物代行のボランティアをしたことがあると聞いた。良いことだ。 ● 手を貸すようなことがあれば、さっと手を貸してあげる。 <p>【障害者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障害であることを隠さない。 ● 障害者も地域での支え合いは必要。孤立しないように。 <p>【移住者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移住者の受入れ後の相談対応を区民へ依頼する。 <p>【外国人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報が伝わるようにしよう。 ● 地域行事等でコミュニケーションの機会を作ろう。 ● 文字など読まなくても分かる情報発信の方法。インスタや写真を活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 移住者へ情報が行き届きにくい。 ● 移住者をよそ者扱い。 ● 移住者の受入れを良く思わない人がいる。 ● 外国の方へ声をかけづらい。 ● 外国の方への地域の情報が伝わっていない。 ● 外国の方との地域交流の機会がない。
----------------------	---	---	--

<p>子ども・中高生と地域とのつながり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 小中学生など子どもも地域づくりの一員 	<p>【小さな子ども・小学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ベルマーク集めは多世代のコミュニケーションツールである。 ● 地域の仕組みを学校等で学ぶ機会を。 <p>【中高生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学生・高校生の活動の場づくりを。 ● 地域を愛する子どもを育てる。地域の生活の楽しさを感じられるように。 ● 避難訓練などのもしものための行事に若者も参加する。(高校生) ● 自分から声をかける。(高校生) ● ボランティアに参加する。(高校生) ● 高校生との対話の機会づくり。 ● 地域のことなどの親子の会話を増やそう。 ● 小中学生だけでなく、高校生も参加できる行事を作ってほしい。(高校生) ● 地域の仕組みを学校等で学ぶ機会を。社会福祉協議会の存在を知らない高校生もいる。 ● たくさんの人と交流を深めるために気軽に立ち寄れる場を増やしてほしい。(高校生) (再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもも参加できる行事を。 ● 中高生を子ども扱いしすぎない。もう少し頼ってくれたら良い。(高校生) ● 高校生が出来る範囲内のことを大人は止めない。(複数) (高校生) ● 親が過保護。高校生を大人として信頼してはどうか。
<p>災害時の対応に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 普段から災害時の備えを 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民生委員だけでなく、普段から要支援者から同意をもらい情報を共有しておく。 ● 災害時に誰が誰に声をかけるのかを決めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所が川の近くなので自宅よりも危険な箇所がある。

地域での関わり方、担い手	<ul style="list-style-type: none"> ● 出来る人が出来ることを担う ● 誰もが役割を担う 	<ul style="list-style-type: none"> ● 30代・40代の男性の参加の場が少ない。参加の機会づくりを。(移住者) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人任せにしない。分からないで断るのではなく、とりあえずやってみる。(大学生) ● 人の意見を聴くこと。 ● できることを奪わない。 ● 過度な責任。 ● 押しつけること。(高校生) ● 異物排除。(移住者) ● 忙しい人・意欲的な人に偏りがち。
情報の伝わり方		<ul style="list-style-type: none"> ● 市内の全ての人に情報が伝わる施策、方法を考える。 ● 会合情報の発信。行政がリスト化など。 ● 集いの場を把握して、情報発信を。(複数) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報がまわらないところがある。(高校生) ● 市内で回覧が回っていないアパートがある。 ● 地域情報の発信方法に工夫を。
その他の孤独を防ぐ取り組みなど		<ul style="list-style-type: none"> ● 同じ立場や問題を抱えている人たちが話せる場をつくる。(高校生) ● 情報や悩み事を共有する地域でシェアハウス。 	
その他			<ul style="list-style-type: none"> ● 移住者へのサービスだけでなく、今いる人へのサービスの充実も。(高校生)

2 地域づくり人材の育成・確保（関係人口含む）

区分	キーワード	具体的な取組みアイデア・進めたいこと	進めていく上での留意事項等
若者の地域参加	<ul style="list-style-type: none"> ● 楽しいが参加のきっかけ ● 主体性の確保 ● 世代間の価値観の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世代交代し 20～30 代でイベントを企画・開催。（高校生） ● 若者が発言しやすい環境づくりを。 ● 若者の意見の尊重。 ● 若者主体のイベントを実施する。 ● 世代ごとに企画を出してコンペしてもらい、みんな今年で今年を決定し、進める。 ● 面白いことをする。参加の動機づけ。（複数） ● 楽しい企画を。（大学生） ● 与布土地域のような女性を含む若者だけのチーム・部会をつくり、若者たちが活動しやすいようにする。 ● 若い人が持つノウハウを上の世代の方へ伝える講座の開催（パソコン教室、SNS の活用等）。（複数） ● 自治協対抗のバレーボール大会など、若い人が参加できる工夫を。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世代間の価値観を否定しない。違って当たり前。（複数）（移住者） ● 古い考えを押しつけない。（大学生） ● 自治協へ若い人が参加しない。
女性の地域参加	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもと一緒に安心して参加できる場 ● 主体性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子連れ OK の雰囲気、環境を整える。（複数） ● 子ども参加 OK の対話や会議の場所を。（高校生） ● 女性が参加したくなる活動を増やす。（大学生） ● 仲間と一緒に参加できると参加しやすい。 ● あさごキッズタウンのように女性も楽しんで参加できる企画を。 	

<p>中学生・高校生・大学生の地域参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 企画段階からの参画 ● 地域づくりの担い手に 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生へのアンケートではなく学生や高校生に合ったアンケートで意見を集める。 ● 自治協議会の活動に大学生・高校生が参画する。(複数) ● 与布土地域自治協議会の活動のスタッフに大学生、高校生がいる。 ● 中高生が企画段階から参加して、その状況を情報発信する。 ● 中高生と一緒に活動する。(移住者) ● 中学校・高校で、月に1時間ぐらいは、地域のことを考える時間が授業であって良いのでは。(高校生) ● 高校生がケーブルテレビなどを活用して地域活動の情報の発信を。(複数)(高校生) 	
<p>小学生の地域参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域行事への参加 ● 地域で遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学生のころから自治協の活動に参加させる機会をつくる。 ● まなび隊、こども教室など、小さな頃から自治協に関わると良い。 ● 幼少期から自治協の名前を知ってもらうよう、小学校と連携していく。小学生が楽しい活動を。(大学生) 	
<p>参加しやすい環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 開かれた対話の場 ● 安心できる発言の場 ● 多様な意見の尊重 ● 主体性の確保 	<p>【参加の機会づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもを連れて行って良い場所なのか、どんな層が集まる場なのかを事前にアナウンスすると参加しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 意見の違いを否定しない雰囲気づくりを。(複数) ● 当日のみの手伝いではつまらない。企画段階から入り、楽しくなれば続く。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 口コミで広がる参加 ● ターゲット層に応じた発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者・女性の声に耳を傾ける機会をつくる。(移住者) ● 若者・女性が発言しやすい会議の場づくりを。 ● どんなことでも発言できる機会(発散)と収束の時間をつくる。 ● 地域づくりに興味がある住民(20代、特に女性など)が気軽に集まるイベント(マーケットなど)、飲み会の開催。もちろん、子どもOKで。 ● つながりの多い人に“誘う役”をしてもらい、知り合いを連れて来てもらう。 ● 参加者を一本釣り方式で声をかけあいながら増やしていく。(複数) ● 企画段階から関わってもらう。意見を聞く。 ● イベントチラシにツイッターのQRコードを載せて追加特典をつくる。 ● 同世代同士で参加を呼びかけ、各世代の良さを伝えあう。 ● 実際に会議室に行かなくても参加できる会議手法・合意形成手法としてzoomやSNSを活用する。 <p>【地域づくり人材の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若い人や女性など、興味がある人たちが集まり、チームでの活動を検討していく。 ● 地域づくりはひとづくり、活動を通して人を思いやる気持ちを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 移住者中心のまちづくりはいずれか限界がある。地域住民の主体的な活動に。 ● 広報、ケーブルテレビでの情報発信のやり方。
--	---	--	--

		<p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若者・女性目線での情報発信（SNS など）。（移住者） ● 情報発信のやり方を見直す。対象に合った情報発信。 ● PTA 総会などで参加を呼び掛ける。 	
地域自治協議会の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治協の意義の再確認 ● 多様な人が関われる仕組みづくり ● 地域課題に即した活動 ● 地域住民の理解 	<p>【地域自治協議会の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域は自ら地域を守っていかないと行政や他に頼ってばかりでは限界がある。 ● 自治協の役割を見直す。（移住者） ● 地域自治協議会の目的、活動の目的を共有し、到達段階も共有しながら歩むこと。 <p>【地域自治協議会の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域情報、地域の課題を抽出し、地域課題に応じた取り組みをしていくこと。 ● 色々な人の意見を聞いて活動につなげていく。 ● 自治協の職員と市民との交流の場をつくる（カフェなど）。 ● 企画に意図・目的を持つ。参加者のターゲットをしっかりと考える。（大学生） ● 地域おこし協力隊の地域自治協議会での役割は大きい。 ● 全戸アンケートから地域計画の策定を。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治協のことを知らない人が多い。（複数） ● 自治協を知らない人が多い。行政が毎年、「自治協とは」というワークショップや講演会などを開催してほしい。 ● ケーブルテレビを活用したり、SNS を活用したりして、紙媒体以外の方法で自治協の活動内容を発信する。（複数） ● ケーブルテレビの内容を You-Tube でも流して若い人も見ることのできる工夫を。 ● 自治協の設置目的を見失わない。 ● 自治協の活動を一つ一つ目的を明確にする。 ● 地域自治協議会での活動はイベントだけではいけない。イベント疲れになっていないか。（複数）（大学生） ● 無理してイベントを続けない。（複数） ● イベントをどんどん増やすこと。見直しも大切。（複数） ● イベントの集約・効率化も考える。 ● とりあえずやる会議を見直し。

		<p>【地域自治協議会の周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治協議会とは何か、意義を周知する。(複数) ● 地域自治協議会の活動を全市的に共有する。(複数) ● 小学生の段階から自治協のことを知ってもらう取組みを。 ● 自治協の取組内容を地域内に発信を。(複数) ● 楽しいが見える、参加したくなる情報発信を。 <p>【自治協の活動メンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 居住地域にこだわらず、誰でもどこでも活動に参加できる仕組みを。(複数) ● 部会員の募集方法に工夫を。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自治協同士が良きライバルのような関係性に。 	<ul style="list-style-type: none"> ● やらされ感のあるイベントの参加はしんどい。 ● 毎年同じ事業を繰り返して行うこと。 ● 事業効率の見直しを。(大学生) ● 自治協のメンバーの固定化。 ● 自治協の役員を任期制に。(複数)(移住者) ● 自治協への交付金が多いのではないかな。
地域リーダーの育成		<ul style="list-style-type: none"> ● 地域自治協議会の役員などリーダー研修会等の開催。 ● 地域自治協議会の活動に限らず、市内の様々な活動の情報共有や活動している人の交流の場づくり。 	
家庭環境づくり		<ul style="list-style-type: none"> ● 三世代での生活が、地域のことの理解を自然と深めることにつながる。 ● 地域自治協議会の活動に親子で参加されている家庭が多い。家庭での地域活動への考え方の共有や理解は大切。 	
関係人口の	● 地域活動への地域外	● 与布土地域自治協議会のように、地域住民にこだ	● 地域のイベントを地域外へどんどん発信しよう。

創出	からの参画	<p>わらず、興味のある人が誰でも活動に参加できるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の友人など地域外からも誰でも参加できるように間口を広げる。 ● 関係人口を増やすためにも地域外から参加できるように。 ● 人が足りていない部分は、外部からの講師などで関係づくりを。 ● 関係人口を増やすために京阪神に出張所をつくる。 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> ● あさご未来会議に若い人の参加が多い。若者がまちに関心を持っていることが確かめられ、安心した。 ● あさご未来会議は目的がはっきりして、参加する人も多様。この成功の要素を他にも活かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 充て職制度の見直しを。

3 これからの公共施設

区分	キーワード	具体的な取り組みアイデア・進めたいこと	進めていく上での留意事項等
再配置の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能の追加による有効活用 ● 複合的な機能により事業効果を上げる ● 集約化と交通アクセス ● 民間活用 	<p>【転用】</p> <p><学校施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校の空き教室の有効活用。(複数)(高校生) ● 学校の空き教室を学校外の人に使ってもらえる工夫をして開かれた学校づくりを。(複数)(大学生)(移住者) ● 学校の図書館を開放。気軽に利用してもらおう。(高校生) ● 学校の図書館を充実し、図書館の代替ができるようにする。(移住者) ● 図書館と学校図書室の連携。 ● 空き教室を文具店や学食など生徒向きの活用や、趣味の活動に使えるようにする。(複数)(高校生) <p><その他の施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 使用していない施設を企業などに使用してもらおう。(複数)(高校生) ● 空き施設を介護施設やリハビリ施設などに有効活用する。(移住者) ● 空き施設を日替わりなどで使用できるキッチンスペースに。起業の支援になる。(高校生) ● 図書館でパソコンなどの利用が出来るなど開放されれば、利用しやすくなる。(高校生) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 使わないからなくしてしまおう！とは考えないこと。 ● 学校の開放には、児童・生徒の安全性の課題がある。 ● 4つのホールの今後は慎重に考えていくこと。 ● ホールを統合することも選択肢だが、利用を促進することも選択肢。(高校生) ● ホールは複数も必要ないと思う。使うときが限られるし、転用も難しい。(高校生) ● 市内ホールの役割分担を考える。 ● 体育館は多すぎるのでは。 ● 利用率だけで判断するのはやめてほしい。 ● 利用率が少ない施設・部屋単位だけでなく、利用時間単位で見て、利活用できる方法を考えていく。 ● 維持費がすべてではなく、公共施設の本当の役割は何か、必要なものは何かの判断が必要。(移住者) ● 公共施設の目的の整理と優先順位の位置づけが必要。また、新たなアイデアも必要。(移住者) ● 市民の声を反映して決めていくことは良いこと。 ● 施設廃止するときに住民の意見に耳を傾けること。(高校生)

		<p>【複合化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図書館にカフェの機能も加えると利用が増える。(高校生) ● 市役所にカフェを作り、市民の交流スペースに。(複数) (移住者) ● 市役所にカフェをつくり高校生がスタッフとして大人の人と半々に入る。地域のつながりづくりの場にもなる。(高校生) ● 市役所をたくさんの人に開放する。(複数) (高校生) ● 公共施設にカフェをつくり、老若男女が集える場をつくる。 ● ホールなどはほとんど使用する機会が無い。楽器を練習したい高校生が利用できるようにする。(高校生) ● 学校と福祉施設を複合化させ、世代を超えて交流が出来る場を。 ● 若者とお年寄りが関われる施設を。お年寄りの方々からたくさん学ぶ機会になる。(高校生) ● 高齢者施設と幼児施設を同じ場所に。(複数) ● 子ども×お年寄りなど、色んな人が交流できる場に。(移住者) ● 行政の縦割りにより利用・活用ではなく、複合的に利用できるように。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今まで地域で大切にされてきた施設をいきなり潰すよりは、少しは時間をかけて代替えなどを考えた方が良い。(移住者) ● 新しい施設を作るときは、それまであった施設の活用方法まで考える。 ● 公共施設の市役所の縦割りをなくす。 ● 「昔からあったから」という地域別の施設の縛りを見直す。 ● 外野の声に振り回されすぎないように。反対の声でも必要性の根拠が薄い可能性もある。 ● 集約化する際には、交通の便への配慮を。
--	--	--	--

		<p>【廃止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 継続や転用ばかり考えずに廃止という手段も視野に入れておく。(高校生) ● 市の財政的に足を引っ張るものはどこかで決断する必要がある。(高校生) ● 転用・複合化だけを考えるのではなく、廃止のことも目を向けて考える。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 駅前に気軽に利用できるカフェのような施設を作ってほしい。勉強もできる。(複数)(高校生) ● 駅の近くなど人が多く使いやすいところに施設を集約する。(高校生) ● アクセスの良いところに必要な施設を集める。 ● 高齢者の施設は増えて欲しい。入居できないという状況をなくしたい。(高校生) ● 古くなっても、外観や内観をおしゃれにするだけで価値が上がる。 ● 送迎バスなど利用するためのアクセスの整備。 	
施設を知る工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設活用に向けた周知 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設の存在や使えるということをPRする。(複数)(高校生) ● 市民やユーザー目線で施設の利用価値を知ってもらう工夫を。 ● コミセンを活用し、活用方法を知ってもらう。(大学生) ● 既存施設を地域の人にもっと知ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● いくら良い施設があっても知らないと意味がない。(高校生) ● 地域の人知らない施設がある。(ゲートボール場など)

維持管理に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用料の最適化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 受益者負担の考え方を持つ。(複数) ● 公共施設の使用料の値上げも考えてみては。 ● 公共施設の使用料を適正な価格に見直す。(複数)(高校生) ● 使用料を商用と区別して設定する。 ● 維持管理を民間企業に任せる。 ● 公共施設の指定管理化へ。 ● 公共施設でもお金を生むような工夫をする。(高校生) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用料をアップするときは、利用率、稼働率を見極めながらすること。(移住者) ● 使用料は電気代だけで計算するのではなく、全体の維持コストから割り出すことが必要。
民間活用		<ul style="list-style-type: none"> ● 使わなくなった公共施設を自由に使えるように賃貸で貸す。 ● 使わなくなった公共施設はコンペ方式で新たな使い方を探る。 ● 民間団体や企業に使わなくなった施設を活用してもらう。 ● 不要の施設は民間へ売却を。 	